

地球惑星科学関連学会1995年合同大会のお知らせ

1990年以来年1回開催されている標記の合同大会が、

期日：1995年3月27～30日

場所：日本大学文理学部（〒156 世田谷区桜上水3-25-40, 新宿より京王線下高井戸または桜上水から徒歩10分）

において、日本地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本地球化学会、日本惑星科学会、日本岩石鉱物鉱床学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本鉱物学会の主催で開催されます。今回は、以下のような当学会に関連したテーマのシンポジウムが開催されますので、興味を持たれる会員各位はぜひ御来聴ならびに討論へ御参加下さるよう御案内します。

1. 「MU レーダー観測10年」(日本気象学会共催シンポジウム)

日時：3月28日(火) 13:15～16:30

内容：世界最高性能の大気観測レーダーとされるMUレーダーが完成して、1994年11月に10年を経過しました。これまでに中層・超高層大気を中心に大気圏全高度域にわたる様々な発見がもたらされていますが、それらが大気科学、超高層物理学にどのようなインパクトを与えたか、これまでの成果と今後の展望について論じます。プログラムは、内外の関連研究者による招待講演とコメントで構成されます。

コンピーナ：

深尾昌一郎(京大超高層、地球電磁気・地球惑星学会運営委員)

木田 秀次(京大理、日本気象学会理事・地球惑星関連学会連絡会担当)

招待講演：

加藤 進(バンドン工大、京大名誉教授)：MUレーダーの生い立ち(15分)

B.B. Balsley(コロラド大)：The Middle and Upper (MU) atmospheric radar at Shigaraki, Japan: An overview of technical capabilities and areas of accomplishments(25分)

浅井 富雄(広大総合科学、東大名誉教授)：対流性降水システム研究の一視点(25分)

廣田 勇(京大理)：中層大気力学におけるMUレーダーの効用(25分)

R.T. Tsunoda(スタンフォード国際研)：MU radar contributions to our understanding of ionospheric irregularities(25分)

H. Rishbeth(サザンプトン大)：MU radar observations of the midlatitude thermosphere and ionosphere: The significance to global studies(25分)

木村 磐根(京大理)：MUレーダーの工学的応用(20分)

津田 敏隆(京大超高層)：信楽MU観測所の現状と将来構想(15分)

コメント：

住 明正(東大気候システム研)、宮原 三郎(九大理)、田中 浩(名大大気水圏研)、小川 忠彦(通総研)

問い合わせ先：

〒611 宇治市五ヶ庄 京都大学超高層電波研究センター

深尾昌一郎または中村卓司

(Tel: 0774-33-5343, Fax: 0774-31-8463)

E-mail: fukao@kurasc.kyoto-u.ac.jp

または nakamura@kurasc.kyoto-u.ac.jp

2. 「固体地球と流体地球のカップリング・ダイナミクス」

日時：3月27日(月) 09:00～12:15

概要：昨年に続いて2回目の今回は、「海面変動の測地学的検証における学際的課題」に焦点を当てると共に、最近急発展した「大気水圏が関与する地球回転」の話題も紹介する。

コンピーナ：

瀬川爾朗(東大海洋研)・辻宏道(国土地理院)・内藤勲夫(国立天文台)

講演：

瀬川爾朗(東大海洋研)：海面上昇の測地学的検証に向けて(15分)

日置幸介(国立天文台)：測地 VLBI による鉛直局速度の測定(25分)

市川隆一(北大理)・辻宏道(国土地理院)・

万納寺信崇 (気象庁) : GPS による高精度
海水準モニターの戦略 : 測地学と気象学と
の幸せな結婚 (25分)

佐藤忠弘 (国立天文台) ・向井厚志 (京大理) :
高精度地球計測と大気・海洋荷重効果 (25
分)

川村宏 (東北大理) : 衛星観測によって捉えら
れた海洋変動現象 (25分)

古屋正人・浜野洋三 (東大理) ・内藤勲夫 (国
立天文台) : 風がチャンドラーウォブルを
励起する (25分)

横山由紀子 (能開大情報) ・内藤勲夫 (国立天
文台) : 磁場・LOD・気候の数十年変動の謎
(25分)

内藤勲夫 (国立天文台) : 海面変動・その学際
的課題 : まとめ (15分)

問い合わせ先 :

〒023 水沢市星ヶ丘町 2-12

国立天文台地球回転研究系 内藤勲夫

(Tel : 0197-22-7129, Fax : 0197-22-3410,

E-mail : naito@gprx.miz.nao.ac.jp)

3. 「シューメーカー・レビー第9彗星の木星衝突」

日時 : 3月29日 (水) 09:00~12:15

コンピーナ :

渡部潤一 (国立天文台) ・森岡昭 (東北大理) ・
小林直樹・佐々木晶 (東大理)

講演 :

鈴木文二・栗原浩・佐々木敏由紀・渡部潤一 :
衝突痕の分光・偏光撮像観測 (20分)

山本哲生・万代英俊・荒川政彦・林祥介 :
シューメーカー・レビー第9彗星による木
星衝突痕形成のモデル (20分)

竹内寛・長谷川均・渡部潤一 : SL9 木星衝突
の観測 : Plume と衝突痕跡の形成 (30分)

高田淑子 : シューメーカー・レビー第9彗星
の正体 : 数値シミュレーションの観測結果
から (20分)

矢部孝ほか : Possible explanation of the
secondary flash and strong flare on
luminosity upon impact of the Shoemaker-Levy 9 (20分)

大家寛 : シューメーカー・レビー彗星襲来に
よる木星磁気圏環境の変貌 (25分)

芳野赳夫 : SL 9 衝突時の電波観測 (20分)

問い合わせ先 : 国立天文台・渡部潤一

(Tel : 0422-34-3644, Fax : 0422-34-3810,

E-mail : owatana@cl.mtk.nao.ac.jp)

編集後記 : 昨年、アメリカが打ち上げた静止気象衛星
GOES 8号の撮った画像を見る機会があった。試験運
用中に撮られた画像であるが、GOES 7号より分解能
が良くなった水蒸気画像や1分間隔で撮られた画像に
よる動画には目を見張るものがあった。特に1分間隔
の動画は積乱雲の発達の様子やハリケーンの中心近く
の雲の回転の様子を細かく見せてくれた。本格運用で
は、1分間隔とはいかないものの、アメリカ国内にシ
ビアストームが発生したときには5分間隔でシビアス
トームを観測するそうで、このようなメソ現象の把握

に大きな武器となりそうだ。

ところで、我が国でも2月に水蒸気センサーなどこ
れまでの静止気象衛星「ひまわり」には無かった新し
いセンサーを搭載した「ひまわり」5号が打ち上げら
れる。GOES 8号より分解能の良い水蒸気センサーは
どんな画像を送ってくるだろうか。また、画像からど
んな知見が得られるだろうか。今から楽しみである。
そして、「天気」にも「ひまわり」の水蒸気画像を使っ
た論文が掲載される事を期待したい。

(藤田由紀夫)